

「神宮前五丁目地区まちづくりに向けた有識者会議」(第5回)

議事要旨

- 日 時:2022年5月17日(火) 17時00分~18時00分
- 場 所:東京都庁 第一本庁舎 33階北塔 特別会議室 N3
- 出席者:中井座長、朝日委員、越塚委員、小林委員(下線:オンライン)
欠席者:伊藤委員

■ 議事概要

□ 提言集(案)について

(資料4:はじめに、1. 計画地(4敷地)の現況)

【小林委員】

- p.2 委員名簿だが、私と越塚委員の「大学院」は削除でよい。(越塚委員も了解)

⇒【事務局】

- p.18にも同様の記載があるので修正する。

(資料4:2. 神宮前五丁目地区まちづくりに向けた大きな方向性)

【中井座長】

- 私は内容を事前確認済み。伊藤委員からは何か事前にご指摘はあったか。

⇒【事務局】

- 内容について事前に確認していただき、了解いただいている。

【越塚委員】

- p.6、p.9などにある「設え」というワードは読みづらい気がした。

⇒【中井座長】

- 「設え」は物理的なモノに限定せず通信環境なども含めた多様な対応という意味であり、趣旨に沿った表現と思われるので、今のままでよいのではないか。

⇒【越塚委員】

- 承知した。

【小林委員】

- p.7の「渋谷の文化を踏まえた使い手のイメージ」の部分は、渋谷に限定してよいのか。

⇒【中井座長】

- 表頭の文言「計画地や渋谷・青山のまちづくりに合わせて、「渋谷・青山の文化を踏まえた使い手のイメージ」に修正する形でお願いしたい。

(資料4:3. 検討の具体化に向けて、参考、各委員コメント、資料5:参考資料)

【中井座長】

- 全体的な体裁についてだが、中表紙にはページ番号を付けない形式でよいのか。目次にはページ番号を振らず、はじめにを1ページ目として、中表紙にもページ番号を付ける形が一般的である。

⇒【事務局】

- 資料4本編・資料5参考資料ともに修正する。

(事務局より資料修正案を提示し最終確認)

【事務局】

- 本日ご指摘いただいた部分に加え、「4. 都民の城(仮称)改修基本設計等」に一部誤記があったので修正した。

【中井座長】

- 指摘いただいた箇所を事務局に修正いただいた。その他なければ修正後の内容で提言集を完成とする。

□ 今回の有識者会議について

(各委員よりコメント)

【朝日委員】

- まちづくりの大きな方向性という会議の目的がはじめはピンとこなかったが、ポストコロナという状況で本当の意味で大きな方向性の検討が必要だという気づきがまずあった。
- デジタル技術の活用や渋谷・青山の即地性に様々なポテンシャルを感じて、新たな空間の考え方というところにとってもワクワクした。
- 渋谷・青山の特性でもある産業というテーマが最後に議論になった中で、計画地で想定されるイメージの図の中で産業や働いている人の絵・写真が表現されないことは問題だと考えていたが、これからは遊びや仕事など人々の活動の境がなくなり、空間的な機能純化もなくなっていくということが今回の有識者会議で感じた部分である。渋谷の特徴でもあるスタートアップも、元々は遊びの延長で組み上がった技術が結果として社会的に役立つ、という側面もあったと思うが、そのようなイメージを想起した。そう考えると計画地で想定されるイメージもこういう形になるのだな、と納得した。
- 都市計画制度や空間の価値の評価軸、空間のマネジメントの部分がこれから大きく変化すると思うので、都市計画やまちづくりについて大きく考え方を変革していく必要があると感じた。今回の提言集の実現に向かって、しっかり進んでいけるとよいと思った。

【越塚委員】

- デジタルをまちづくりに絡める時に、最終的な完成図の中にデジタルがどのように入り込むか、ということばかり考えがちであったが、今回の有識者会議を通して、まちづくりにプロセスが重要で、完成後も継続する一連のプロセスの中にデジタルをどう活用するか考える事が重要だと感じた。
- ベンチャー関連の比較的若い方と会話をしたときに、ベンチャーにも様々な世代があり、5歳くらいのジェネレーションの差で雰囲気は全く異なる文化であると伺った。若者をひとくりにできないと思ったとともに、こういった現場の雰囲気は外からだと分からないと改めて感じた。まちづくりにおいても現場の感覚のある世代の方々に関わっていただく作り方・プロセスが重要だと思った。

【小林委員】

- 都民の城(仮称)の改修計画にも大きなコンセプトがあったが、4敷地一体活用によって、今の時代に合ったものとしてバージョンアップできるという意味で、一体活用に大きな意義を感じた。
- 現在の都心部の開発は民間主導が当たり前になっている中で、今回議論したような挑戦的なまちづくりを進めようとするときに、行政の役割がますます重要となり、相当に自発的に取り組んでいただく必要があると感じた。

【中井座長】

- ポストコロナの都市開発の在り方について、他の場所でも議論する機会があったが、ぼやっとした印象で止まっていた。しかし、今回この有識者会議を通して少しフォーカスが合うようになったと感じた。それと同時に、今までのやり方を念頭に置いていると、上手いかない、かなり大変になりそう、という部分も見えてきた。これまで関わってきた他の都府県活用の検討では、財政的な側面から有効活用したいという考え方が前面に出ていた印象だが、この神宮前五丁目地区の開発については、都民や地区周辺、開発に関心を持っている方に納得していただくために、東京都が主体的・積極的にどのように関わっていくかが問われていると思う。

(最後に)

【事務局】

- 確定した提言集は近日中にホームページにて公開する予定。
- 今回の会議で、ポストコロナのまちづくりの視点として大きく3つお示しいただき、神宮前五丁目地区まちづくりに向けた大きな方向性としての提言集をいただいた。今後も引き続いて、まちづくり検討会において、有識者会議委員の皆様には行政も加わった上で実務的な検討を進める。

以上